市政に関する一般質問の概要

3月15日・16日に議員21名が市の考えをただしました。主な質問、答弁の要旨を紹介します。

えびりーぶの教育支援教室の課題について

いちごの会　田中　ひろこ

問　教育相談の拠点として、困難を抱えた子どもたちの居場所として、えびりーぶが開所して一年が経ちます。その成果と、今後の課題を伺います。

答（教育長）：子どもの居場所は、一義的には家庭であり学校であってほしいと願っています。人に話を聴いてもらえ、自分の活動を認めてもらえ、自分をいきいきと表現する場所があってほしいと思います。あらゆる社会教育の場などにも居場所があることが、とても大事だと思っています。

答（教育部参事）：教育支援センター「えびりーぶ」内にある教育支援教室「びなるーむ」に、不登校の小学生・中学生が現在通っています。成果としては、えびりーぶが独立した施設になり、プライバシー保護の面からも通いやすくなりました。木の香りのする教室や芝生が整備され、通室生にとって居心地の良い場所となっています。また、通室生やその保護者は教育相談も受けており、びなるーむのスタッフと相談員の連携が円滑になりました。課題は、通室生が全不登校児童生徒の一割にとどまっており、学校にもびなるーむにも通えない児童生徒が多数いることがあげられます。

その他の質問

・災害弱者をめぐる共助の体制づくりについて

子どもの貧困対策について

いちごの会　西田　ひろみ

問　市では経済的に就学困難な児童生徒に交付している就学援助費の受給者は全児童生徒の10人に1人です。また、ひとり親家庭は約900世帯です。

子どもの将来が生まれ育った環境に左右されないように、貧困が連鎖しないように、貧困実態把握のための調査の実施、生活困窮家庭への学習支援の実施、就学援助費による中学校注文弁当費の完全給付、ひとり親家庭においては婚姻歴の有無により行政サービスを受ける時に差異が生じないように寡婦（夫）控除のみなし適用について、市の見解を伺います。

答（市長）：貧困からの早期自立に向け現行制度を最大限活用し支援してまいります。

答（保健福祉部次長）：貧困家庭へは個々の対応が必要で、全庁的な連携により対応しているので、今は実態調査の実施は考えていません。寡婦（夫）控除のみなし適用については研究していきます。

答（教育長）：中学生版「まなびっこクラブ」の設置など、生活困窮者を含む全生徒を対象に学習支援をしていきます。就学援助受給世帯の中学校給食（配食弁当）は無償ですが、選択制のため、現在、受給世帯の生徒の約40％が選択している状況です。

食の創造館での異物混入について

太平会　氏家　康太

問　2月4日に今泉小学校の給食で出された「ごはん」に白いナイロンブラシの毛が一本入っていました。今回、このような事態に陥った原因は何ですか。どのような再発防止策をとったのか伺います。

23年11月に給食調理業務の受託会社の社長が、市長の政治団体に寄付しています。個人の寄付ですので違法性はまったくありませんが、このような会社は指定管理者の選定から排除するべきではないでしょうか。

答（教育長）：混入はあってはならないことですので、再発防止に努めてまいります。

答（教育部次長）：混入の原因は、炊飯装置を清掃する際に手の届かない箇所があり、普段は使わないブラシを使用したため、ごはんの中にブラシの毛が混入したものです。

現在は、機器類の清掃時に異物混入の原因となる道具などは使用しないよう、全調理員へ周知徹底を図り、高圧洗浄機を使用して清掃を行う方法に改めております。

答（市長）：寄付した方が委託先の会社の社長との認識はありません。食の創造館の指定管理者は、教育委員会が選定委員会を作り、第一順位として選定した業者です。私は選定に口を出したことはありません。

その他の質問

・墓地開発申請者に対する調査結果について

・市道1525号線について

・図書館の館長職について

海老名市北部地域における農業施策の方向性について

創新海クラブ　久保田　英賢

問　海老名市史によると、市域に米作りをする人々が定着したのは2000年位前の弥生時代中期とのことです。三川の結節点ゆえに、河川の氾濫が頻発し沖積平野が形成されました。まさに、農業を行うにふさわしい土地となっていったわけであります。

「2000年の歴史を持った肥沃な農地」こそ、本市の大きな財産であり、まちづくりの資源だと思います。市として、悠久の農地を活かした農業振興を今後どのように進めていこうと考えているか伺います。

また、北部地域は農用地も集約されていますが、この北部地域の農業施策の方向性についても伺います。

答（市長）：市では攻めの農業を展開しようとしています。農地の集団化・集約化、農業生産法人の設立、ICTの活用、第6次産業化の支援などで農業従事者の収益向上に努めたいと思っています。

北部地域では残すべき農地をしっかり残すビジョンが必要と思います。県内一の生産量を誇る酒米、山田錦が多く栽培されている地域特性に着目しつつ、しっかり農業振興ビジョンに位置づけ、ひとつずつ進めていきたいと思っています。

その他の質問

・介護保険制度改革における新たな総合事業の取り組みについて